

佐渡における植物観察記録 9

渡辺 洋子

[佐渡島 新記録]

ツルタチツボスミレ *Viola gryoceras* A.Gray var. *rhizomata* (Nakai) Ohwi

すみれ科

佐渡市(両津) 和木一(相川) 石名<金剛山道> [小田 5738-23-13]

県内では1000m以上の山岳地にややまれに点在(池上・石沢 1982)と記録されているが、佐渡でも1000m近くで確認された。県絶滅危惧LPである。

テングノコツチ *Tripterospermum japonicum* (Siebold et Zucc.) Maxim.var. *invokubile* (N. Yonez.) J. Murata

りんどう科

佐渡市(両津) 和木一(相川) 石名<金剛山道> [小田 5738-23-13]

従来ツルリンドウと混同されていたが、茎が短く、他のものに巻きつかず、がく片は小さく翼状に張り出さないなどの特徴からツルリンドウの変種と位置づけられ、本州中部から東北地方の亜高山に分布することが、指摘されている(米澤 1988, 米澤1989, 邑田1989, 邑田2009)。佐渡の1000m近くの石名県有林や金剛山道にも分布していることが確認できた。

[佐渡島確認・追加記録]

シロバナカモメヅル (オオバナカモメヅル) *Cynanchum sub lanceolatum* (Miq.) Matsum.

ががいも科

var. *macrantum* (Maxim.) Matsum. 写真 1・2

佐渡市(畑野) 畑野(諏訪) [畑野 5638-73-72]

佐渡市(両津) 吾瀧 [両津 5738-03-56]

佐渡での記録は奥山(1983)の分布図に佐渡の打点があるのみだったが、畑野諏訪のため池のふち及び(両津)藤巻の田の土手でみつけたので、記録する。また、北見(1963)に出ているカモメヅル *Cynanchum macranthgum* var. *dickinsii* Ohwi (佐和田町) 山田の記載は本種かもしれない。



写真1 シロバナカモメヅル
畑野 諏訪 [2006 8/2]

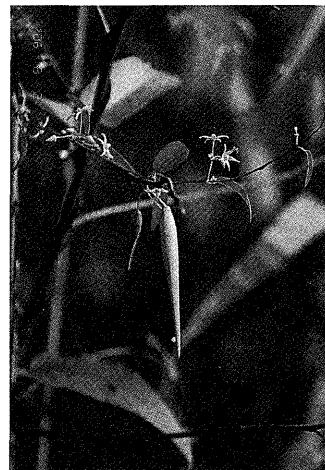


写真2 シロバナカモメヅル
畑野 諏訪 [2004 9/8]

[2010年の素浜の漂着種子]

2007年、素浜ではグンバイヒルガオが40個体、最大の株は420×220cmの方形の中に796枚の葉をつけていた。また、ハマナタマメも8株みつけた(新津年報2007)。いずれも花をつけるには至らなかった。近年の猛暑で、開花するかもしれないと期待して9月17日行ったが、グンバイヒルガオ(写真3) 一株をみつけたのみで、ハマナタマメは見つからなかった。2007年に開花を見たヨウサイは翌2008年一株あったが、2010年見当たらず、帰化植物のオニハマダイコンだけは30-40株と数を増やしていた(写真4)。定着したと思われる。



写真3 グンバイヒルガオ
素浜[2010 8/16]



写真4 オニハマダイコン
素浜[2010 8/16]

文献

畔上能力(1996) 山溪ハンデイ図鑑2 山に咲く花 山と溪谷社

池上義信(監)・石沢 進(編) 新潟県植物分布図集 第3集: 植物同好じねんじょ会.

邑田 仁(1989) 日本のツルリンドウ属 日本の生物 3(11):53-60.

邑田 仁(2009) テングノコヅチ 趣味の山野草 8月号:1-3.

奥山春季(1983) 原色日本野外植物図譜2 誠文堂新光社

渡辺洋子(2008) 佐渡における植物観察記録 6. 新津植物資料室年報 2007:28-30.

米澤信道(1988) *Tripterospermum inbokubile* Yonezawa (Gentianaceae) in new species forom Central Honshu, Japan (本州中部産ツルリンドウ属の新種) 植物地理・分類研究 36: 9-12.

米澤信道(1989) テングノコヅチの新産地と分布. 植物地理・分類研究 37: 25-26.